

ステップアップ講座

テキストNo. 1-(1)

かごしまの未来を創る現場人応援事業

建設現場アシスタント

建設簿記・会計研修

～飲食・観光業の経験を活かす + はじめての建設業簿記～

鹿 児 島 県

監修 ヒロT & T株式会社

語句の定義

- ① 建設ワークシェアリング： 分業できる作業を補助員(アシスタント)に任せることで、社員が主業務に集中でき、その結果、社員の能力向上に寄与するものです。
- ② 建設現場アシスタント： 技術職員の補助を行う「業務アシスタント」と事務系職員(経理、総務、営業等)の補助を行う「事務アシスタント」
- ③ 教育指導者： 建設会社で各社員が建設業務・事務アシスタントを OJT する際の指導や OJT 環境を整える担当者

令和 3 年 9 月 1 日

かごしまの未来を創る現場人応援事業事務局

(注) この令和 3 年度の研修は、コロナ禍によって、「飲食業や観光業」から**建設業に転職された方**や**一時的に建設業の応援として、「働き始めた人」**のさらなる活躍の方法をご一緒に考えるための内容が主になっています。また、「**飲食業や観光業**」で、**少し簿記的作業に関係していた人を対象**としています。

したがって、これから**建設業への転職**や、一時的な応援を考えている方や**簿記的作業を全く知らない人は**、令和 2 年度の研修内容から、ご覧いただくことをお勧めします。

その内容は、「**鹿児島県公式チャンネル**」に掲載されています。しかし、この WEB 頁はいろいろな動画が掲載されているので、下記から見ていただくと便利です。

<https://www.pref.kagoshima.jp/ah01/kanri/assist-training-r2video.html>

または、『**【令和 2 年度かごしまの未来を創る現場人応援事業】Web 研修の動画を公開**』で検索してください。



目 次

I 飲食・観光業での経験を建設業で活かす

1. 道具の違いが絶滅と繁栄を分けた.....3
2. 人は「強み」で仕事をしている3
3. 価格問題への飲食・観光業の転職者のお役立ち.....4
4. 損益分岐点を考える簡単な練習問題.....9
5. このような「現場限界利益」の提言をいつするのか.....10
6. 飲食・観光業の転職者の「広報」などのお役立ち 11

II はじめての建設業簿記..... 14

1. 簿記のしくみと重要性.....14
2. 簿記の手続きと大きな流れ.....17
3. はじめての建設業会計.....22
4. 建設業特有の勘定科目25

I 飲食・観光業での経験を建設業で活かす

1. 道具の違いが絶滅と繁栄を分けた

私たちホモサピエンスといわれる人類が、**道具を使って発展した**ことは、ご存知の通りです。古くは、「石器、青銅器や鉄器、また産業革命の機械という道具」があります。さらに、「**知識という道具**」を使っています。

しかし、ここに落とし穴があることも、最近わかってきました。それは、私たち同じ人類の中でも、ネアンデルタール人という人達がありました。彼らも道具を使っていたのです。発掘して調べてみると彼らの身長は 160cm ~180cm ほどで脳の容量も 1600cc と、私たち人類のホモサピエンスより大きかったというのです。

しかし、ネアンデルタール人は滅びました。その理由は、**彼らの「道具」が、発展していなかった**のです。その原因に「**コミュニケーションの問題**」があるとされています。たとえば、「誰かが、もっと便利に“矢じり”などの道具ができる」ことを発見しても、ネアンデルタール人のコミュニケーションは悪く、知識が広がらずに絶滅したというのです。



しかし、我々のホモサピエンスは、「**ひとつの成功を広げるコミュニケーション方法**」に優れていました。だから、その知識を伝達して鹿などの動物を、「**楽に獲得して**」繁栄を始めたというのです。そうなのです。道具を使えば成功するのではなく、「**時代に合った便利な道具**」を使っているかが、問題なのです。その便利な道具のひとつを「**飲食業や観光業**」の皆さんは持っているのです。戦略的な価格決定という知識です。

2. 人は「強み」で仕事をしている

- ①飲食業や観光業から建設業に転職された方や、一時的に建設業の応援として働き始めた人が活躍するためには、まず、建設業の仕事を早く覚えることは当然です。
- ②しかし、それだけでなく、「**飲食業や観光業**」で高めた能力を使うことも大切です。人は、「**その人の強み**」で仕事をしています。自分の中に培(ツチカ)われた能力を活かすことも重要です。
- ③「**飲食業や観光業**」で普通に行われているのに、**建設業では実施されていない**ことは、建設業で仕事を始めた人にとってチャンスなのです。
- ④それは、以前の研修でも説明したように、弁証法的な「**逆転の考え方**」に近い考え方なのです。
- ⑤建設業のことをあまり知らないということは、建設業の従来の習慣に取り込まれることなく、ごく普通の産業の考え方を使うことができるのです。

それでは、建設業の事務作業の中心になる会計・経理について、新しい経営の施策へのお役立ちをご一緒に考えていきましょう。

3. 価格問題への飲食・観光業の転職者のお役立ち

(1) きゃべつ・白菜やホテル・航空機の価格変動の方法

飲食業で使う材料の「冬野菜の白菜も、夏のキャベツ」も、その価格は需要と供給で決まります。需要が少なければ安くなり、多ければ高くなるのは、いまさら説明するまでもありません。

観光・宿泊業でも、同じ現象が見られます。ホテルや旅館、飛行機なども含めて、ストックできない産業は、季節シーズンの需要により価格変動しています。価格変動することにより、需要を生み出して供給とのバランスを取ります。季節変動がありストックができない商品の多くはそうになっています。

これに対して在庫できる自動車やテレビなどの工業製品は、ストックができるので季節の価格変動は少ないのです。

(2) 「季節の価格変動」がない建設業

しかし、建設業では、土木工事も、建築工事もストックができません。さらに、屋外生産で、現場は季節環境の影響を大きく受けています。それなのに、どうして季節による価格変動をしないのでしょうか。その理由のひとつは建設業経理を、しっかり実施しているからです。それは良いことなのです。

建設業の経理の原則は、建設業法の規定に従った「現場単位の原価」の把握です。その個別の現場単位の工事原価は、「材料費、労務費、外注費、経費」に区分されていることは、前回の研修で説明されました。

その建設業の会計の長所が、逆にマイナスに動いていることも、あるのです。それを補完する知恵を使うことが大切なのです。

建設業に価格変動がない理由には、以下の3点も影響しています。

- ① 会社は、「現場利益」から受注の判断をする習慣があり、年間の全体収益から戦略的に判断する視点が薄いこと。
- ② 公共事業の積算基準に、季節変動がないこと。
- ③ 以前は、閑散期に人や機材を遊ばせていても年間の利益が出たこと。

しかし、建設業の環境が大きく変わったときも、その変化に対応して戦略的に閑散期の顧客創造ができれば、経営は安定します。閑散期に「受注金額をどのように考えたらよいか」を教えてくれるのは、「損益分岐点」という管理会計の情報なのです。

(3) 建設業の将来と「若者定着」の重要性

この建設業の需要の繁閑変動の問題は、建設業の若者定着とその将来にも関係する問題なのです。建設業の「働き方改革」に関しては、「長時間労働の是正」、「週休2日制や有給休暇を最低5日間の消化義務」などの順守は大切です。

それらの実現には、「労働生産性の向上」の取り組みを加速させなければできません。しかし、現場の生産性向上は、現状以上に手足を早く動かして「能率を上げる方法」で解決するには限界があることは誰でもわかります。「賢く働く戦略的な経営」が大切なのです。

建設業は、「季節変動と公共事業による繁忙期と閑散期の波」という影響を二重に受けています。その影響を直接受けているのが、専門工事業の「建設技能者」、つまり「現場の職人

さん」です。この建設技能者が、建設業で働く人の約66%を占めているのですから、彼らの労働環境を整備することは、重要な課題です。現場の若者にとって、閑散期で仕事が少ない時期には、もっと安定収入のある製造業やサービス業が、魅力的に映るのは当然です。

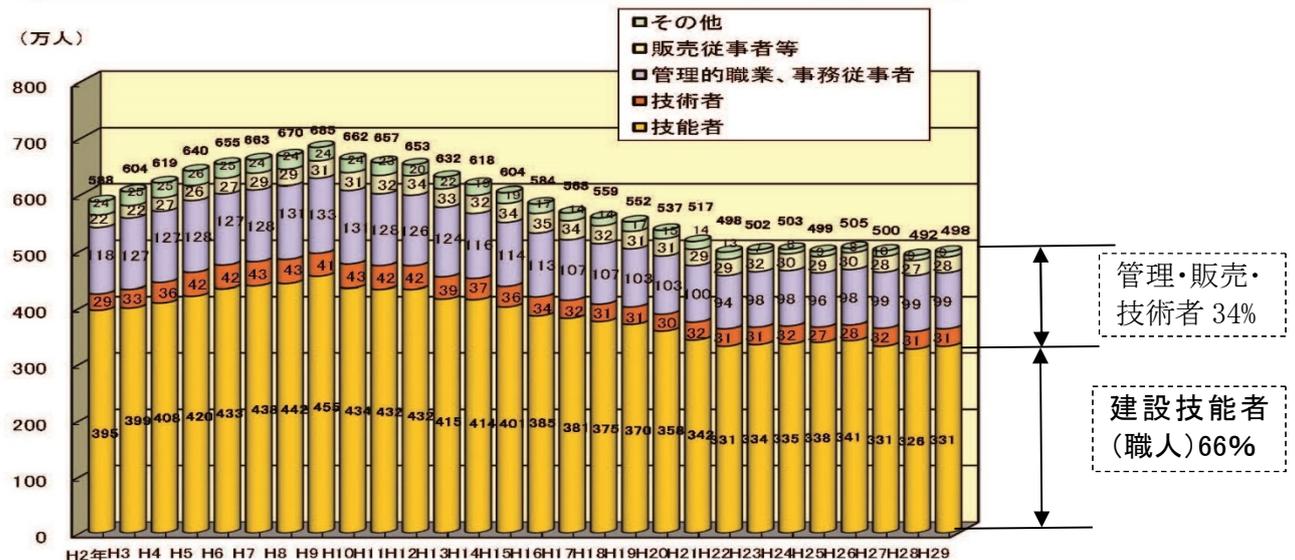
現在は、建設業の現場で働いていた若者が、明日から製造業やサービス業で働くことが、可能な時代になっているのです。それらの産業では、優しく業務方法をOJTで教えるから、建設業で働いていた人でも、簡単にできるのです。

他の産業が、そんな風に働き手の受け入れ体制を作っているから、建設業の3年離職率は、約50% (厚生労働省:「建設業における若年労働者確保の課題について」平成 29 年 10 月 31 日)であり、せっかく若者が来ても、3年目には、半分がいなくなっているのです。これでは、建設業の将来がありません。

<建設技能者数等の推移>

	H9年	H22年	H29年	(H29・構成比)
建設業就業者	685万人	498万人	498万人	100%
管理・販売・技術者等	230万人	167万人	167万人	34%
技能者	455万人	331万人	331万人	66%

<建設技能者数等の比率>



※ 国土交通省のホームページより

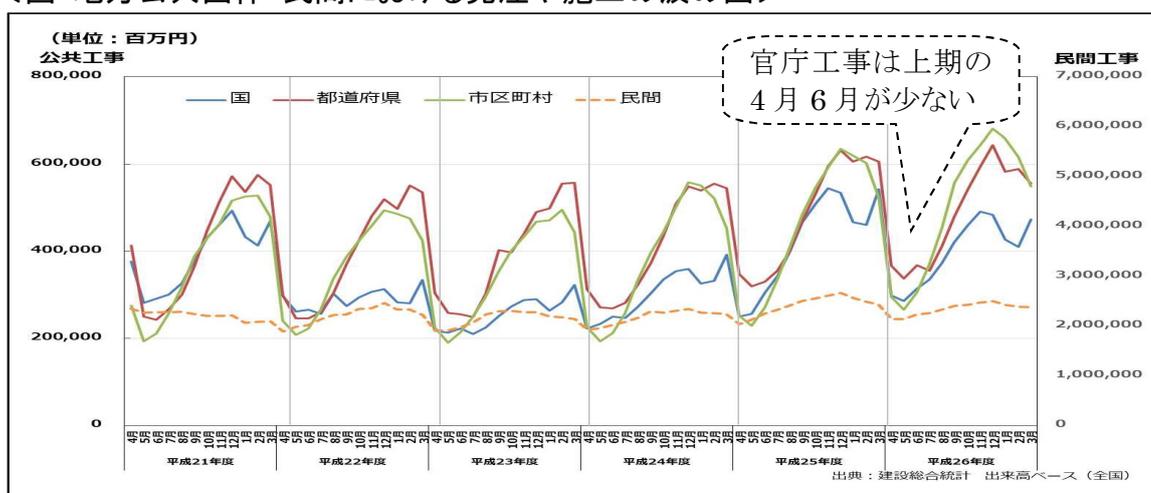
(4) 発注者も工事の繁閑の波の対策をしている

国土交通省は、『建設産業政策 2017+10(テン)』という政策提言の中で、『若い人たちに明日の建設産業を語ろう』と題して、建設産業の改革の方向性を示しています。

その注目キーワードは、「生産性向上、現場力、施工時期の平準化、ICTの活用」などです。そこで、「**建設工事の繁閑の波を無くして、施工時期の平準化を図る**」ことの重要性和、その具体的な施策について確認していきましょう。

県や国でも、早期に発注する公共事業を多くする「ゼロ国債」などで、繁閑の平準化施策を行って、さらに「ゼロ債金融保証」などの金融面の支援も行っています。しかし、それらの施策を待っているだけでは、建設業の各社にとって十分な解決策ではありません。

<国・地方公共団体・民間における発注や施工の波の図>



※ 国土交通省のホームページより抜粋

(5) 建設業の「固定費と変動費」の費用分解

これからは、建設各社でも、繁閑の波を小さくする「需要創造に向けた戦略的施策」が必要な時代なのです。その時に重要なのは、単に営業的なダンピング視点ではなく、管理会計の視点に立った、需要を創造する考え方が大切になります。

たとえば、本社の建物や人件費という「固定費」は、閑散期で仕事があっても費用がかかります。その固定費を少しでも償却して、閑散期の赤字を無くすることができれば、年間利益の増加につながります。

これは、マイナスを少なくするという戦略的な考え方です。利益を出すというプラスの施策も大切ですが、「赤字を少なくするという逆転的な発想」も、企業経営には大切なのです。

建設業では、受注するときを作る見積書では、「現場利益」がどのくらいであるか、という視点で判断します。逆に、それを受注しなかったらどのくらいの赤字になるか、という逆転の発想なのです。ホテル経営で考えれば、「変動費であるシーツの洗濯代」を支払った後、「固定費である受付職員給料と建物償却費」が少し出れば、空室にして収入がゼロであるより良いのと同じことです。

建設業で大切なのは、損益分岐点を使うときに、おおまかに「固定費と変動費」の費用分解をしてみることです。このような「管理会計」は、意思決定に役に立てば、概略の計算でもよいのです。世の中の道具には、精密に使う道具もあれば、大まかに使う道具もあります。管理会計でも同じではないでしょうか。

(6) 損益分岐点と工事平準化のイノベーション

工事の閑散期に、人件費や事務所経費などの固定費を少しでも消化できる程度の受注価格であれば、まったく仕事の無い状態より、赤字を減らせるのは当然です。

そこで重要なのは、**単なるダンピングの低価格にすることではありません**。ダンピングというのは、現状ある仕事を資金繰りなどのために、無理に安く受注することです。

「工事平準化のための需要創造価格」とは、一般のお客様が、建設業の仕事が無いと言っていた4月の見積価格なら倉庫を改築しようかな、店舗の駐車場を舗装しようかな、自宅のお風呂を改築しようかなというように、「**新しい需要創造**」につなげることです。お客様も喜ぶことになります。

この「**お客様を喜ばせて需要を創造して社会的な影響を与えること**」ことをイノベーションというのです。イノベーションは新発明ではなく、「**便利なものを利用してお客さま価値を創り、喜ばせて、社会に役立つ**」ことです。

損益分岐点は、経営の戦略的な便利な道具です。もちろん、飲食業や観光業などの他業界では普通に使われていますが、建設業界では「**固定費と変動費の比率**」が現場ごとに異なるから使えないと思っている経営者が多いのです。

(7) 「現場限界利益」という考え方をを使う

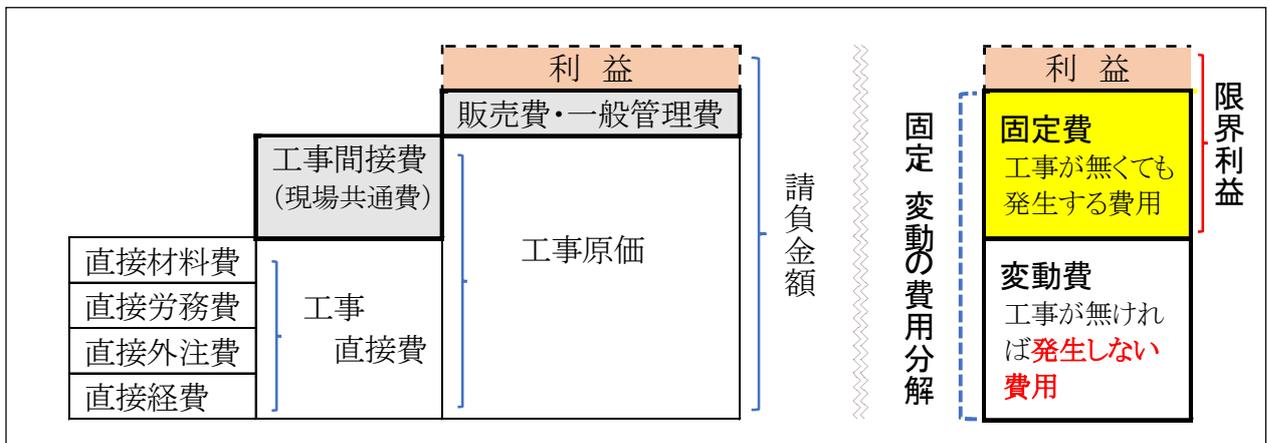
そこで、建設業で損益分岐点を利用しながら、具体的に受注戦略を展開する管理会計に、『**現場限界利益**』という用語と考え方を導入するとよいのです。「限界利益」という管理会計の用語は、一般産業では多く使われています。しかし、建設業ではほとんど使われていないのは、単品生産である工事には、利用しにくいと考えられているからです。

一般の「**単位限界利益**」という概念を、建設業では「**現場限界利益**」と呼ぶようにすると利用方法が、見えてきます。

『**現場限界利益**』とは、「**請負金額－変動費**」です。逆に表現すれば、下の図からわかるように、「**現場限界利益＝固定費＋利益**」という簡単な内容です。そこで表現されているのは、「**固定費の償却額＋利益**」です。これが、工事の閑散期の受注金額の目安になるのです。

もちろん、建設業では現場ごとの費用と利益を明確にしなければ、「どんぶり勘定」になってしまいます。その意味で、現場単位の利益を明確に管理することは大切です。しかし、それは経営上の「**蟻の目**」です。さらに、年間全体の広い視野を持った「**鳥の目**」も、重要なのです。

<固定費・変動費の費用分解と限界利益>



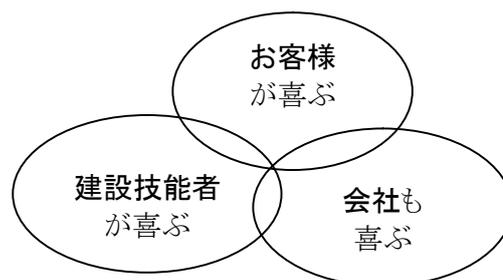
(8) ポイントは現場代理人の評価基準の変更

建設会社の営業マンは、「現場利益が出ない工事」は、基本的に受注しません。そんな工事は、現場代理人から文句を言われて、拒否をされるからです。現場代理人から考えれば、赤字工事をして、評価を落とすくらいなら遊んでいたほうが良いと考えるのが普通です。現場代理人は、仕事が無いことの責任を問われることが無いからです。

しかし、経営管理の視点から見ると、閑散期には限界利益が出て、固定費が償却できれば、年間の経営面から考えればプラスになるのは当然です。

したがって、経営者が実施すべきなのは、現場代理人の評価方法を「従来の現場利益の基準」だけでなく、計画した「現場限界利益」や「戦略的貢献度」を含めた新しい評価基準にする必要があるのです。つまり、会社の評価基準と考え方を全体利益から変更することなのです。

いかがでしょうか。閑散期に仕事を生み出して、年間に途切れることのない仕事をつくるのは、優秀な若い建設技能者、つまり現場の職人を喜ばせて、さらにそれが儲けにつながる。「お客様が喜び」・「建設技能者(職人)が喜び」・「自社も喜び」というWin=Win=Winの「三方よし」の良いことです。それが、若者定着の大切な施策のひとつで、建設会社の将来を創ることなのです。



(9) 繁閑の波を小さくする多能工化

企業受注の繁閑の波を小さくする施策には、建設技能者の「多能工化」という方法も、ありますが、「建設事務アシスタント」の皆さんが、扱うには専門的知識が必要なのでここでは詳細には扱いません。

4. 損益分岐点を考える簡単な練習問題

【演習クイズ1＝ホテルの例】

- ①△△ホテルは10室あるが、予約前日に6,000円／室の全部がキャンセルになった。
- ②ホテルの1日の**固定費**(=客が無くても発生する費用・従業員給与など)は3万円で、
変動費(=客が無ければ発生しない費用・シーツ洗濯代など)は、2,000円／1室である。
- ③社員Aさんは、赤字を減らすために、当初の半額の3,000円／1室の格安にして
カプセルホテルの客を獲得しようと考えた。これなら「10室の満室」が予想された。
- ④社員Bさんは、1室当たりで赤字になるのは問題であるから、5,000円ですべきだと
考えた。この5,000円は、変動費2,000円＋固定費3,000円(=3万÷10室)から
利益ゼロで考えたが、これでは「2室」しか埋まらないと予想された。

⇒ あなたがホテル社長なら、「赤字を減らす案」のAとBのどちらの意見を取りますか。

※ 計算機が無くても、考えられる程度の内容としてあります。



この日の予想計画	当初予定	Aさん案	Bさん案
①売上(予想)の総額	60,000	30,000	10,000
②変動費の総額	20,000	20,000	4,000
③固定費の総額	30,000	30,000	30,000
④利益(赤字)金額 = ①-②-③	10,000	▲ 20,000	▲ 24,000
⑤固定費を償却(充当)できる額	全額	10,000	6,000

<限界利益が示すもの>

限界利益を図示すれば、右図の簡単な内容です。売上を上げるためには、変動費(材料費や労務費など)が掛かるが、「一定程度の規模に拡大すれば固定費を償却できるか、さらに利益が残るか」ということが限界利益から見えるのです。

売上高	変動費	
	限界利益	固定費
		利益

<当初案>

<Aさん案>

<Bさん案>

売上高 60,000	変動費 20,000	
	限界利益 40,000	固定費 30,000
		利益 10,000

売上高 30,000	変動費 20,000	
	限界利益 10,000	固定費 償却 10,000
		赤字 20,000

売上高 10,000	変動費 4,000	
	限界利益 6,000	固定費 償却 6,000
		赤字 24,000

<解答> 赤字を少なくして、固定費の償却が多い「Aさん案」が、経営的に有効です。

【演習クイズ2・建設業の例】

- ①凸凹建設会社の**固定費**は、社員給与＋現場・一般管理費等の**50万円**である。
- ②3月の繁忙期に、顧客からお風呂の改築の見積もり依頼があった。
- ③この現場の**変動費**は材料費 50 万円＋労務費 50 万円(協力会社)の合計 **100万円**である。
固定費は他の現場に配賦もするので、「当月の現場の配賦分は **20万円**」である。そこで**利益 30万円**を含めて見積金額を**150万円**とした。
- ④しかし、顧客は「高いので風呂はそのまま使う」として工事は受注できなかった。
- ⑤4月になり閑散期で仕事がないので営業に行った。顧客は**130万円**なら工事を発注すると言うが、それでは**利益は出ない**。しかも、**4月はこれ以外の仕事がない**。

問1 あなたが社長なら、「**赤字を減らし、顧客を喜ばせる**」この受注をしますか？

問2 労務費(協力会社)を「**固定費**」とする場合のメリット・デメリットを考えてください？

※ 計算機が無くても、考えられる程度の内容としました。空欄を計算して考察してください。



(単位:万円)

風呂場改築工事の内訳項目	3月当初見積内訳	4月顧客要望内訳
①売上(予想)の総額	150	130
②変動費の総額	100	100
③固定費(当現場の配賦分)	20	50
④利益(赤字)金額 = ①-②-③	(黒字)30	
⑤固定費を償却(充当)できる額	(他現場を含め)全額	

※ 解答は、次頁へ

5. このような「現場限界利益」の提言をいつするのか

「飲食業や観光業からの転職者」が、このような「現場限界利益」などの「戦略施策の提言」をいつ行うが良いのでしょうか。時代が来るまで、“知識を蓄えて”待つことが大切です！

- ①ものごとは、ニーズがある時に、それを充足するのが一番に相手の満足が得られ、感謝の言葉をもたらすことになります。戦略的知識も、同じです。**経営者が必要とした時**です。
- ②空腹のときは、何でも美味しく感じます。しかし、ラーメンで満腹の時に、美味しいお寿司を出されても食欲が出ないのと、同じなのです。
- ③「現場限界利益」の利用などの知識の道具は、**タイミング**を見て相手(経営者)が受け入れやすい状況に説明してください。経営者が求めない特に知恵を出しても、「**目の前の建設業の事務仕事もできないのに!**」という反発を生むことは、**避けてタイミングを見るように**してください。

【演習クイズ2・建設業の例】の解答

(単位:万円)

風呂場改築工事の内訳項目	3月当初見積内訳	4月顧客要望内訳
①売上(予想)の総額	150	130
②変動費の総額	100	100
③固定費(当現場の配賦分)	20	50
④利益(赤字)金額 = ①-②-③	(黒字)30	▲ 20
⑤固定費を償却(充当)できる額	(他現場を含め)全額	30

<解答>

問1 ①「4月はこれ以外の仕事がない」ので、この仕事を受注しなければ、「会社の赤字は50万円」になる。

②したがって、受注した方が、年間の経営から見て効果があるので受注する。

問2 ①メリット＝閑散期にも若者(建設技能者)に給料を支払い定着につなげられる。そのことで多能工などの教育につなげることができて、さらに会社の将来展望を開くことができる。

②デメリット＝閑散期にも若者(建設技能者)に給料を単に払っているだけでは、赤字を大きくするだけになるので、需要創造が必要となる。

6. 飲食・観光業の転職者の「広報」などのお役立ち

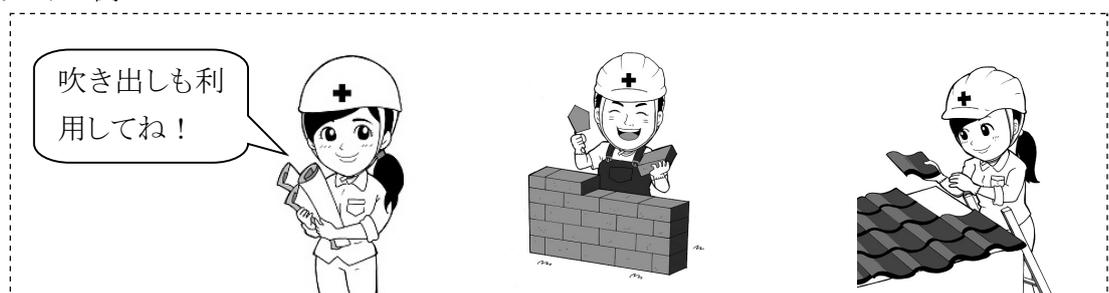
建設業では、橋や建物を含めた社会的資本においても、新しい建築物より補修が多くなりました。民間のビルなどでも、適切な補修が建築物の寿命を延ばすことから、多くなっています。

①補修するということは、その土木・建築物を「使っている人がいる」ということですから、その人たち(住民や利用者)に**工事の広報**を上手にすることが、大切になったのです。

②建築物の利用者や工事の**近隣住民のニーズ**を感じ取ったり、調べたりするのは、「飲食業や観光業の転職者」の得意な所ではないでしょうか。

③さらに、「利用者や工事の近隣住民」に工事内容を知らせる通知にも、**かわいいイラスト**などを入れて**親近感を得る方法**も、「飲食業や観光業の転職者」が上手なところでしょう。こんな点に「飲食業や観光業の転職者」が、お役立ちする方法もあるのではないのでしょうか。

<イラストの例>

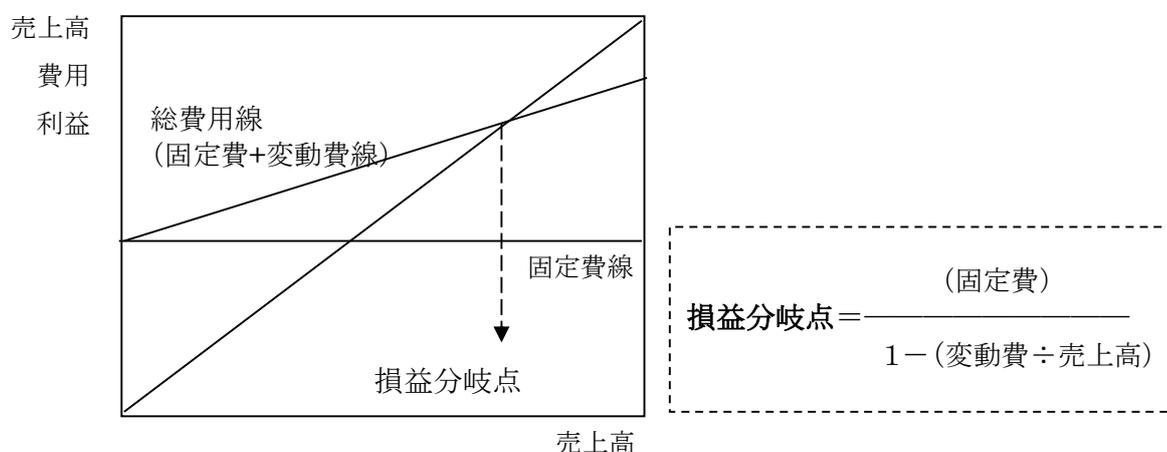


<限界利益の図示>

売上高	変動費	
	限界利益	固定費
		利益

<損益分岐点図表>

- 一般には、損益分岐点を下の図表などを用いて説明しますが、建設業では使い慣れていない概念なので、ここでは下の図表を説明に使用しません。



<< 参 考 >>

<どうして「限界利益」って呼ぶのか> http://www.mejapan.com/09_8.html を参照

「売上高－変動費」の算出で求められる限界利益は、英語の limit「限界」から想像して、利益の限界、もうこれ以上利益がでない限界、というように考えてしまいます。しかし、もともと限界利益の英語は「marginal profit」で、それを和訳して「限界利益」という言葉になりました。

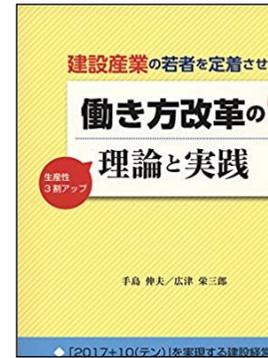
マージン(margin)は、「縁、余白、限界」のことで、商業では「原価(変動費)と売価の開き、利ざや」の意味になります。これを聞くと「なるほど・・・」と思われる方も多いと思います。大阪商人の商い(アキナイ)を思い出すと良いでしょう。「この商品はマージンが大きい」などと日常用語でも使われることがありますね。marginalはmarginの形容詞ですから「縁の、淵の、やっと収支が償う限界の」という意味なのです。こうして marginal profit は限界利益となりました。さて、「現場限界利益」は、建設業法などで決められている用語ではなく、管理会計の便宜上の名称で、一般産業の「単位限界利益」です。

ちなみに売上高－売上原価の算出で求められる売上総利益は英語では、gross margin です。これは経理上の正式な名称なので、決算書には「売上総利益」と書いてありますが、長いので日常は粗利益、もっと省略して粗利(ア拉里)と呼んでいるのです。

■ “現場限界利益”の参考本

『建設産業の若者を定着させる働き方改革の理論と実践』

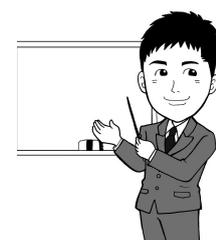
手島伸夫／広津栄三郎著 清文社



■ “損益分岐点”の参考本

『中小建設業のための管理会計読本』

(一財)建設産業経理研究機構 管理会計研究会編

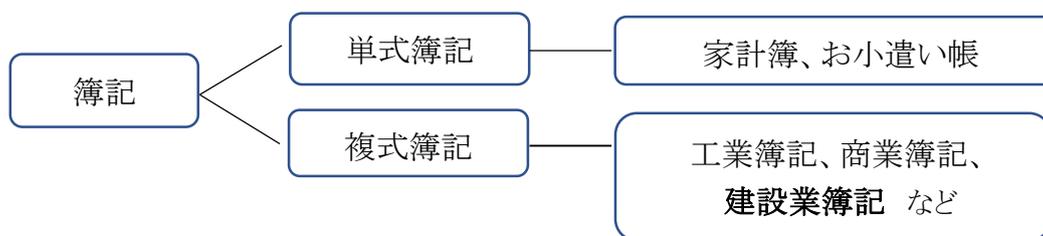


Ⅱ はじめての建設業簿記

1. 簿記のしくみと重要性

現在の企業会計では、会計ソフトを使用して行うのが一般的ですが、それを扱う人間に簿記の知識がなければ、「仕訳」という第一ステップである重要な作業を正しく行うことができません。国でも企業でも家庭でも収入と支出を管理するために記録しておくことが大切です。

お金とモノの動きを記録するのが「簿記」です。儲けや財産などの状態を表すために、一定のルールに従って決められた帳簿に取引を記録する必要があります。簿記は「帳簿に記入する」という言葉を略したものと考えると分かりやすいでしょう。簿記には家計簿やお小遣帳など単純にお金の増減の結果を記録する方法である「単式簿記」と、企業会計で使用される「複式簿記」の2種類があります。さらに建設業では「建設業簿記」が使われ、建設業ならではの特性があります。



(1) 簿記上の取引とは？

さて、突然ですが、ここでクイズです。次のうち、「簿記上の取引」にならないものはどれでしょうか。

- ① 運搬途中の事故で資材を破損してしまった。
- ② 工期3年の¥2,000,000の工事契約を結ぶことができた。
- ③ 火災により¥500,000の倉庫が燃えてしまった。



(2) 簿記はなぜ大切なのか

日々の全ての取引について正確に記録、集計することが大切であるのは勿論のこと、それらの帳簿類を見るということも企業の経営活動を行う上で非常に重要です。前月や前年度の業績、他社との経営比較ができる重要なデータだと言えます。

儲けや財産の状態が明らかでなければ企業はどうなるでしょうか。経営をどのように行っていけば良いのか正しく判断できませんし、経営計画も立てられません。そして、簿記の目的は儲けや財産状況を企業の中で把握するためだけのものではないのです。



企業は銀行や株主、取引先などさまざまな外の相手に対して会計情報を明らかにするという責任があります。企業は儲けや財産状況が分からなければ銀行からお金を借りることができません。株式会社は株主から資金を集めてその資金を元に経営活動を行っています。そのため株式会社は株主に経営の成果を報告する義務があるのです。

また、簿記は企業の経理会計部門だけに必要なものではありません。例えば、営業ならば経費をもう少し減らして儲けを出そうとか、研究開発部門の開発費用が非常に高額だが実際の儲けを出すにはどうすればよいかというように、部門別に考えることは企業経営の上でも企業成長するためにも非常に重要です。

さらに、私達個人の場合で考えた場合にも、簿記の知識があれば経済ニュースを理解することや株などの投資の判断にも活用することができ、日常生活に生かすことができます。簿記の原理を知ることで、様々な情報を自分で分析し考える力、物事を二局面から見る力が付き、働く上でも個人の人生でもきっと新しい景色が見えてくるはずですよ。

(3)損益計算書と貸借対照表

1)損益計算書(P/L)

1年間にいくら儲けがあったかをまとめたもので、企業の経営成績を表しています。「**収益－費用＝利益**」となり、収益よりも費用が大きい場合は「**損失**」となります。「**収益**」は企業活動の成果として得た対価で、売り上げ(売上高)のことです。また次の費用を回収する財源という性質もあります。「**費用**」は収益を得るために発生した支出で、売上原価(仕入原価)や給料、光熱費、支払い家賃などが挙げられます。

費用 (工事原価含む)	収益
利益 (当期純利益)	

2)貸借対照表(B/S)

財産はどのくらいあるのかをまとめたもので、企業の財政状態を表しています。図の左側(資産)と右側(負債と純資産の合計)は等しくなるので、「**資産－負債＝純資産**」、「**資産＝負債＋純資産**」という関係になります。一般的には、「**資産**」は現金、預金、商品などの流動的なものと、建物、機械装置などの固定資産に分けられます。「**負債**」は未払金、買掛金、借入金などです。「**純資産(資本)**」は資産と負債との差で、企業活動の元手となります。

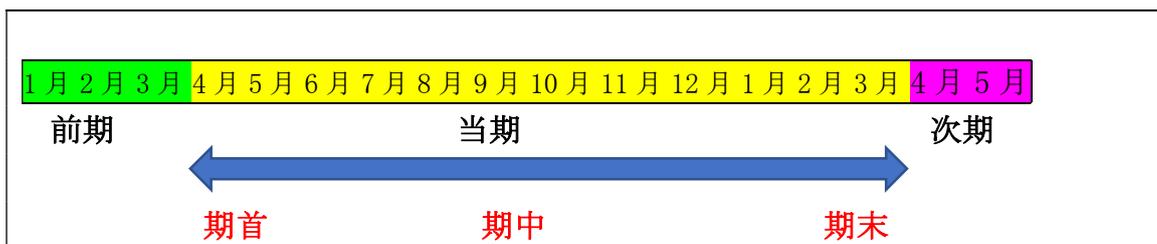
資産 現金、土地、権利、 将来お金を生み出 せるもの	負債 借金、将来返すもの、 将来払うもの
	純資産(資本)

2. 簿記の手続きと大きな流れ

(1) 日々の取引から決算まで

① 会計期間

企業は儲けを出すために継続して活動を行っていますが、どこかで一定期間ごとに区切りをつける必要があります。この一定期間を「会計期間」と言い、通常は1年です。会計期間のはじめを「期首」、終わりを「期末」、期首と期末の間を「期中」と呼びます。期末は決算日とも呼ばれ、現在の会計期間のことを「当期」と言います。



ここまでの知識を確認しましょう。(ア)～(シ)に入る正しい金額を計算してください。

第39回建設業経理事務士検定試験4級(一般財団法人建設業振興基金HPより)

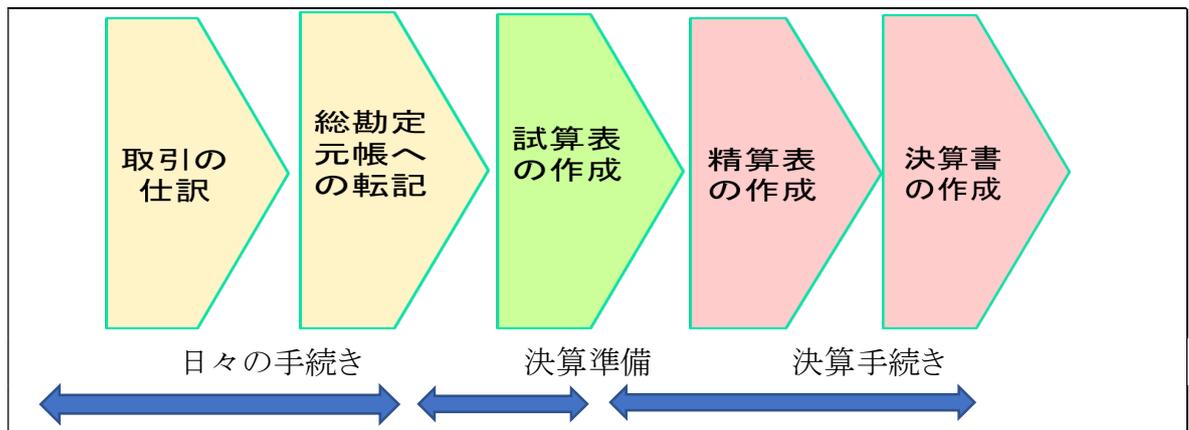
	期首			期末			収益	費用	当期純利益 または 当期純損失(△)
	資産	負債	資本 (純資産)	資産	負債	資本 (純資産)			
a	72,000	60,000	ア	85,000	イ	ウ	90,000	75,000	エ
b	オ	32,000	カ	キ	35,000	22,000	ク	41,000	6,000
c	90,000	ケ	32,000	コ	45,000	サ	40,000	シ	△3,000

(単位:円)

(ア)	(イ)
(ウ)	(エ)
(オ)	(カ)
(キ)	(ク)
(ケ)	(コ)
(サ)	(シ)

※ 解答と計算内容は21頁です。

②手続きの大きな流れ



③試算表とは

仕訳や転記が正しいかをチェックするものが「試算表」です。試算表は3種類あり、合計だけを確認するもの、残高だけを確認するもの、それら二つを一つにまとめたものがあります。実務ではコンピューターによって会計データを管理していることが多いため、試算表はチェックするためというよりも、その月の経営状態を確認するためという意味で作成することが多いです。精算表を作るうえでの基礎データとなります。

④精算表とは

決算整理(正しい計算書にするためにいくつかの項目について調整処理する作業)が終わったら精算表の作成をします。期末の残高試算表に決算整理仕訳の金額を記入して、損益計算書と貸借対照表を作成するための表です。

⑤決算とは

1年の会計期間が終わったら、決算書をまとめる作業(決算手続き)に入ります。1年間の取引全てをまとめ、その業績を正確に計算するための重要な作業です。

(2) 主要簿と補助簿

① 主要簿

簿記で使用される帳簿には、「主要簿」と「補助簿」があります。主要簿とは、取引を仕訳してそれを記入する「仕訳帳」(仕訳帳が無い場合は会計伝票を用いる)と、「総勘定元帳」があります。

仕訳帳は簿記上の全ての取引について日付順に記入されます。仕訳帳から総勘定元帳への「現金に関する転記方法」の例は以下のようになります。

仕 訳 帳							
							1
〇〇年	摘要			元丁	借方	貸方	
4	11	(現金)		1	50,000		
		(借入金)		5		50,000	
		×〇銀行から借り入れ					

総 勘 定 元 帳							
現 金							
							1
〇〇年	摘要	仕丁	借方	〇〇年	摘要	仕丁	貸方
4	11	借入金	1	50,000			

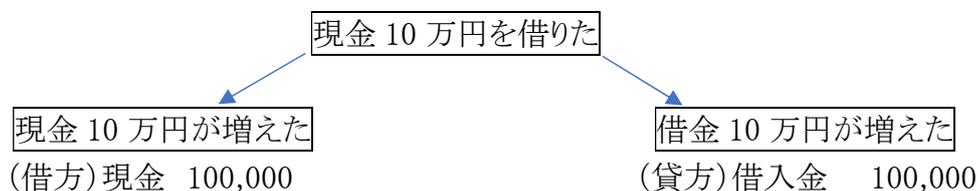
毎日の取引を仕訳記入したら、月末に勘定科目ごとに集計をします。すると、その月に行われた取引によって、いくら入ってきたのか、いくら出ていったのか、残額はいくらかを把握することができます。借方の合計額、貸方の合計額、残高を計算します。この作業を「総勘定元帳への転記」と呼びます。

② 補助簿

主要簿だけでは取引の詳細は分からないため、主要簿を補助するための帳簿が「補助簿」です。補助簿によって取引先ごとの取引の内容を詳しく知ることができます。主要簿は基本的に必ず作成しなければなりませんが、補助簿は業種や会社の規模に応じて必要なものを作成します。

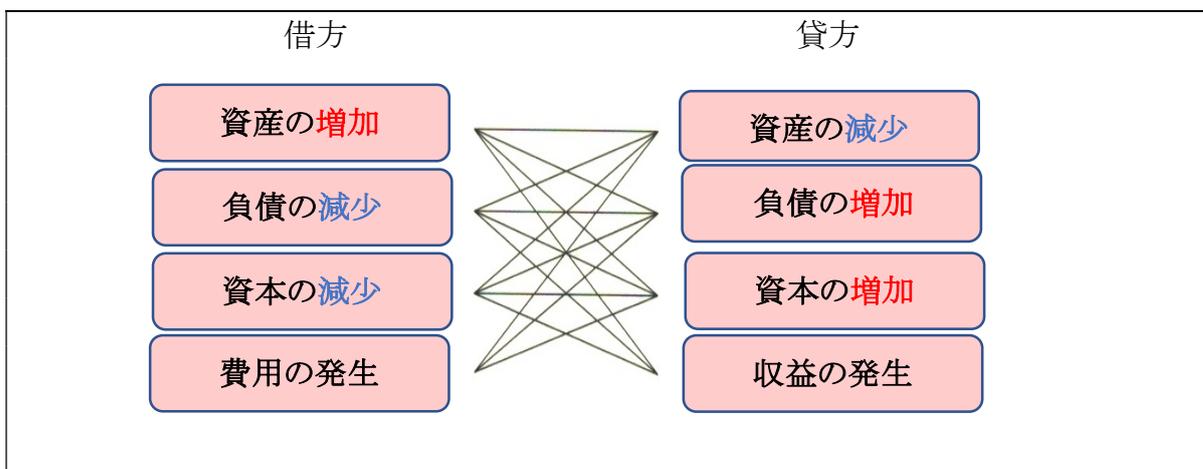
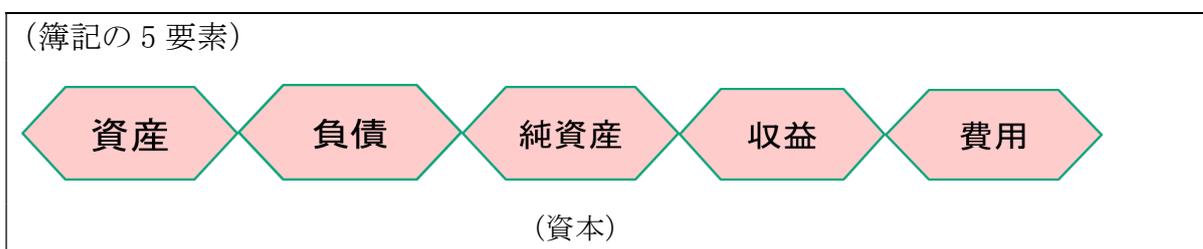
③日々の手続き(仕訳、総勘定元帳への転記)

仕訳は一つの取引を二つの側面に分けるという分解作業です。例えば、「9月30日に現金10万円を借りた」場合はどのような仕訳になるでしょうか。



この「現金」や「借入金」のことを「勘定科目」といいます。勘定科目と金額を用いて、**左側(借方)**と**右側(貸方)**に分けて表します。仕訳とは基本的小金の出入りとその原因の組み合わせです。

この場合、現金10万を借りたということ、二つの異なる面から捉えます。実際に、借方、貸方どちらに記入すればよいのかは、簿記のルールとしてきちんと決まっています。そして、先程の貸借対照表や損益計算書でも触れましたが、仕訳をするためには簿記の大きな5つの要素があり、勘定科目はその要素のグループにそれぞれ所属し、区別されています。



それでは、建設業経理事務士4級の過去問題を解くことで、ここまでの理解を深めていきましょう。(1)から(8)に入る正しい言葉を選びましょう。

第39回建設業経理事務士検定試験4級(一般財団法人建設業振興基金HPより)

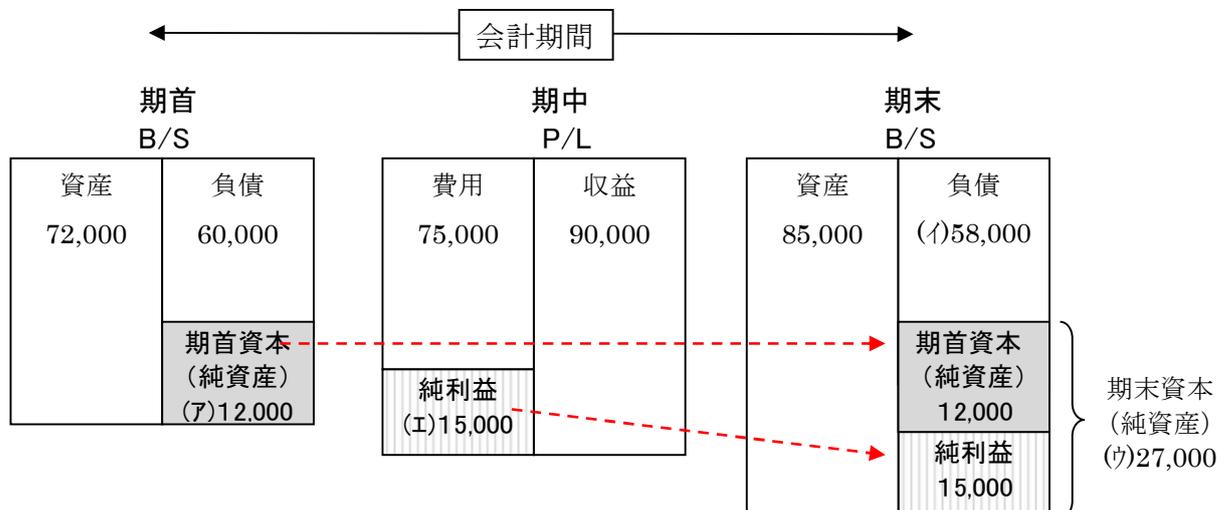
- ① 支払利息は (1) 勘定に属し、備品は (2) 勘定に属する。
- ② 総勘定元帳の (3) へは仕訳帳の記録が (4) される。この正確性を確かめるために (5) が定期的に作成される。
- ③ (6) になって、会計期間中に記入した諸帳簿の記録を整理して締め切るとともに、(7) と損益計算書を作成する手続きを (8) という。

ア 資産	イ 仕訳帳	ウ 収益	エ 勘定口座	オ 会計期末	カ 決算	キ 負債
ク 転記	コ 現金出納帳	サ 試算表	シ 精算表	ス 貸借対照表	セ 当座預金	
出納帳	ソ 補助簿	タ 費用	チ 主要簿	ト 勘定科目		

<17頁の解答と計算内容>

(ア) $72,000 - 60,000 = 12,000$	(イ) $85,000 - 27,000 = 58,000$ (ウの後、計算)
(ウ) $12,000 + 15,000 = 27,000$ (エの後、計算)	(エ) $90,000 - 75,000 = 15,000$
(オ) $32,000 + 16,000 = 48,000$ (カの後、計算)	(カ) $22,000 - 6,000 = 16,000$
(キ) $35,000 + 22,000 = 57,000$	(ク) $41,000 + 6,000 = 47,000$
(ケ) $90,000 - 32,000 = 58,000$	(コ) $45,000 + 29,000 = 74,000$ (サの後、計算)
(サ) $32,000 + (-3,000) = 29,000$	(シ) $40,000 - (-3,000) = 43,000$

<aの問題の考え方と解き方>



3. はじめての建設業会計

(1) 簿記の種類

企業の経営活動は多種多様であり、その内容や業種によって、簿記はいくつかに分類されます。例として、コンビニ、メーカー、運輸業、建設業を挙げて違いを比べてみましょう。

コンビニ		→			仕入れた商品のまま販売する
メーカー		→			材料から製品を作って販売する
運輸業		→			荷物を運ぶサービスを提供する
建設業		→			材料から建物、道路などを作る

コンビニのような販売業は商品売買業と言われ、仕入れ原価が主な原価となります。このような商品売買業で用いられる簿記が「**商業簿記**」です。

それに対し、メーカーのような一般的な製造業は仕入れた材料を加工し製品を完成させて販売するため、製造にかかる原価が主な原価となります。このように製造業で用いられる簿記は「**工業簿記**」といいます。そして、運輸業などのサービス業は元手となる製品はほとんどなく、働く人の人件費や経費が主な原価となります。

(2) 建設業会計の特性

建設業の場合も材料をもとに建物や道路などを作りますので、製造業と同じくその工事に費やしたさまざまな費用を計算し原価とする必要があります。「**建設業簿記**」は製造業で用いられる工業簿記に非常に似ていますが、建設業の特性として以下のようなポイントが挙げられます。



- ・受注産業である
- ・外注が多い
- ・工事種類や作業単位多様
- ・生産(工事)期間が長い
- ・契約金額が高額など

(3) 完成工事原価の要素

建設業では工事を完成させるために、材料を仕入れ、現場で作業をする人件費の他、さまざまな費用が発生します。また、建設業では個別原価計算という方法を用いて、**工事ごとに原価を集計していく特徴**があります。ここで大切なポイントは、工事原価は建物を建てる際に工事に直接かかわる純粋な費用で計算しなくてはいけないということです。そのため、工事毎に「**工事台帳**」を作成し、それぞれの原価を計算して正しく記録、集計する必要があります。その他にも「**原価計算表**」や「**完成工事原価報告書**」などの重要な報告書があります。

工事原価 (工事完成までに発生した原価)	材料費 (必要な材料を仕入れ消費した費用) 労務費 (人件費) 外注費 (下請け企業にかかわる費用) 経費 (上記3つ以外で消費した費用)
--------------------------------	--

①材料費

- 主要材料費 ……基本的な部分を構成するもの(鉄筋、セメント、瓦など)
- 補助材料費 ……工事のために補助的に使われるもの(塗料、ペンキなど)
- 仮設材料費 ……足場やフェンスなど一時的に現場で使用されるもの

②労務費

- 現場作業員の給与(賃金)
- 現場作業員の賞与手当、退職給付費用
- 現場作業員の法定福利費 ……健康保険料や雇用保険料等の社会保険料 など

③外注費

建設業はそれぞれの工事、工程において専門性が高く、自社で施工できない作業を下請契約により外注する割合が非常に高いため、独立した要素として処理します。(一般の製造業では外注費は経費の一つとして計算されます。)

④経費

工事について発生した材料費、労務費、外注費以外で消費した要素のことです。

工事現場の管理業務に従事する技術者、監督者や事務員の給料

設計料

機械使用料

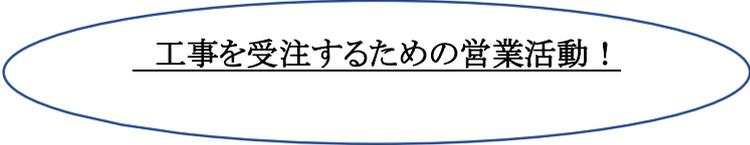
水道光熱費、旅費交通費など(本社使用分は含まない)

現場に係る「管理
や事務作業」をする人
の給料

(4) 販売費および一般管理費とは

本社、本店などの事業部等において発生した費用は、工事原価とは別の営業活動と捉え、販売費・一般管理費として処理されます。

- 給料(本社勤務)
- 旅費交通費
- 広告宣伝費
- 水道光熱費
- 通信費
- 役員報酬など



知識の確認として、選択肢の中から正しい勘定科目を選び仕訳をしてみましょう。

第 39 回建設業経理事務士検定試験 4 級(一般財団法人建設業振興基金 HP より)

仕訳 (上記を参考に作成)

- ① 本社事務員の給料 ¥170,000 と作業員の賃金 ¥210,000 をそれぞれ現金で支払った。
- ② 工事現場の諸経費 ¥59,000 を現金で支払った。
- ③ 本社事務用の筆記用具と印刷用紙 ¥15,000 を小切手を振り出して支払った。

(選択肢の勘定科目)

労務費、経費、給料、備品、当座預金、現金、事務用品費、支払利息

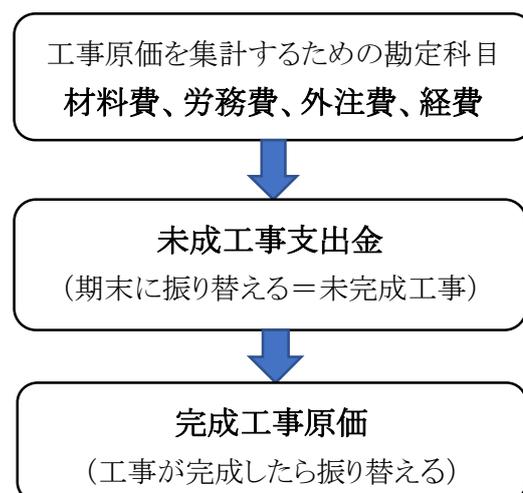
(借方)		(貸方)		
	勘定科目	金額	勘定科目	金額
①				
②				
③				

4. 建設業特有の勘定科目

(1) 建設業簿記と一般的な簿記の比較

建設業簿記	一般的な簿記
未成工事支出金	仕掛品(製造)
なし	製品
完成工事高	売上
完成工事原価	売上原価
完成工事未収入金	売掛金
工事未払金	買掛金
未成工事受入金	前受金

※ここが建設業簿記を理解するポイントです。



(2) 工事完成基準と工事進行基準

一般的な商品売買業では商品を販売したときに「売上」という収益が発生します。工事が完成し顧客に引き渡した時に「完成工事高」という収益を計上する方法を「**工事完成基準**」といいます。

しかし、建設業の特性の一つとして工期が長いという特徴があるため、工事が1年を超えるものに限って、工事の進行度合いを見積り、それに対する収益を部分的に完成工事高として計上する「**工事進行基準**」も認められています。

(3) 建設業の一般的な補助簿の種類(例)

現金出納帳	取下金(取り下げ金)台帳
当座預金出納帳	有価証券台帳
預金台帳	固定資産台帳
受取手形記入帳	減価償却費明細表
材料貯蔵品台帳	従業員貸付金台帳
原価計算報告書	支払手形記入帳
未成工事支出金補助簿	工事未払金台帳
工事台帳	販売費および一般管理費補助簿

原価計算表

(単位:円)

摘要	A現場		B現場	C現場	合計
	前期分	当期分	当期分	当期分	
材料費	20,000	24,000	14,000	27,000	85,000
労務費	19,000	25,000	23,000	28,000	95,000
外注費	13,000	21,000	22,000	23,000	79,000
経費	6,000	18,000	17,000	20,000	61,000
合計	58,000	88,000	76,000	98,000	320,000
備考	完成		完成	未完成	

未成工事支出金

前期繰越 58,000 材料費 65,000 労務費 76,000 外注費 66,000 経費 55,000 <hr style="border: 0; border-top: 1px solid black; margin: 5px 0;"/> 320,000		完成工事原価 222,000 次期繰越 98,000 <hr style="border: 0; border-top: 1px solid black; margin: 5px 0;"/> 320,000
--	--	---

完成工事原価報告

自 令和〇年〇月〇日 至 令和〇年〇月〇日

(単位:円)

I.材料費	58,000
II.労務費	67,000
III.外注費	56,000
VI.経費	<u>41,000</u>
完成工事原価	<u>222,000</u>

第 39 回建設業経理事務士検定試験 4 級第4問(一般財団法人建設業振興基金 HP より)

次の資料 1 及び資料2に基づいて、解答用紙の**合計残高試算表**を完成しなさい。

(資料1) 20×9 年 1 月 1 日の勘定残高は次のとおりである。

現金 ¥ 190,000 当座預金 ¥ 372,000 土地 (各自計算)
借入金 ¥240,000 資本金 ¥490,000

(資料2) 20X9 年 1 月 ※一部抜粋としました。

8 日 借入金 ¥60,000 を現金で返済した。

31 日 本社事務所の当月分の家賃 ¥62,000 を小切手を振り出して支払った。

★まずは、仕訳と総勘定元帳 T フォームを使って内容を整理しましょう！

① ~仕訳内容~

		借方	貸方	
8日	借入金	60,000	現金	60,000
31日	支払家賃	62,000	当座預金	62,000

② 次項の~総勘定元帳 T フォーム~へ転記します。

現金				
1/1	前月繰越	190,000	()
1/21	完成工事高	376,000	1/19	経費 59,000
			1/23	給料 170,000
			1/26	労務費 210,000
借入金				
()	1/1	前月繰越	240,000

当座預金

1/1	前月繰越	372,000	1/10	事務用品費	15,000
			1/11	材料費	165,000
			1/15	通信費	17,000
			1/27	支払利息	3,000
				()

支払家賃

()
---	---

合計残高試算表

借方		勘定科目	貸方	
残高	合計		合計	残高
67,000	566,000	現金	499,000	
110,000	372,000	当座預金	262,000	
168,000	168,000	土地		
	60,000	借入金	240,000	180,000
		資本金	490,000	490,000
		完成工事高	376,000	376,000
165,000	165,000	材料費		
210,000	210,000	労務費		
59,000	59,000	経費		
170,000	170,000	給料		
15,000	15,000	事務用消耗品費		
17,000	17,000	通信費		
62,000	62,000	支払家賃		
3,000	3,000	支払利息		
1,046,000	1,867,000		1,867,000	1,046,000

精算表

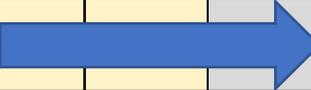
勘定科目	残高試算表		整理記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	325,000							
当座預金	660,000							
普通預金	140,000							
建物	950,000							
借入金		710,000						
資本金		1,200,000						
完成工事高		1,800,000						
材料費	420,000							
労務費	310,000							
外注費	520,000							
経費	93,000							
給料	130,000							
通信費	10,000							
旅費交通費	60,000							
水道光熱費	10,000							
支払地代	60,000							
支払利息	22,000							
	3,710,000	3,710,000						
完成工事原価								
当期(純利益)								

次の事項を参照のうえ、**精算表**を完成しなさい。

- 1) 当時末において工事はすべて完成し、引き渡し済みである。
- 2) 工事に関する原価はすべて完成工事原価勘定に振り替える。

これからどのように「精算表」を完成させればよいか、一緒に確認しましょう！

精算表(解答)

勘定科目	残高試算表		整理記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	325,000						325,000	
当座預金	660,000						660,000	
普通預金	140,000						140,000	
建物	950,000						950,000	
借入金		710,000						710,000
資本金		1,200,000						1,200,000
完成工事高		1,800,000			1,800,000			
材料費	420,000			420,000				
労務費	310,000			310,000				
外注費	520,000				520,000			
経費	93,000			93,000				
給料	130,000				130,000			
通信費	10,000				10,000			
旅費交通費	60,000				60,000			
水道光熱費	10,000				10,000			
支払地代	60,000				60,000			
支払利息	22,000				22,000			
	3,710,000	3,710,000						
完成工事原価			1,343,000			1,343,000		
			1,343,000	1,343,000	1,635,000	1,800,000	2,075,000	1,910,000
当期(純利益)					165,000			165,000
					1,800,000	1,800,000	2,075,000	2,075,000

4 級の試験知識としては、このようにして完成となります。

(さいごに)

このように建設業簿記は、他の産業とは異なる特性を用いています。請け負った工事の状況は全て正しく記録をし、帳簿や財務諸表を作成します。コンピューターによる自動会計が主流の現在であるからこそ、その原理や意味をきちんと理解しておくことが非常に大切であり、みなさんが日々行っている経理会計事務は企業活動において大変重要な役割を担っているのです。

ステップアップ講座

～建設簿記・会計研修～

発行日 令和3年9月1日発行

作成者 「かごしまの未来を創る現場人応援事業」事務局

鹿児島県 土木部 監理課 入札・指導係

〒890-8577 鹿児島市鴨池新町 10-1

TEL:099-286-3498 FAX:099-286-5617

監修 ヒロ T&T 株式会社

協力 建設業マネジメント研究会

不許複製